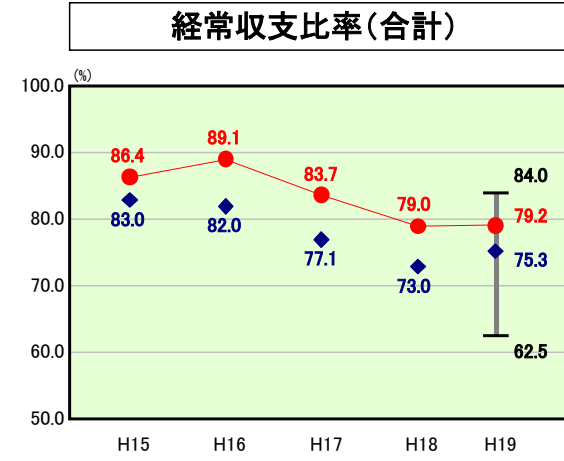


# 歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

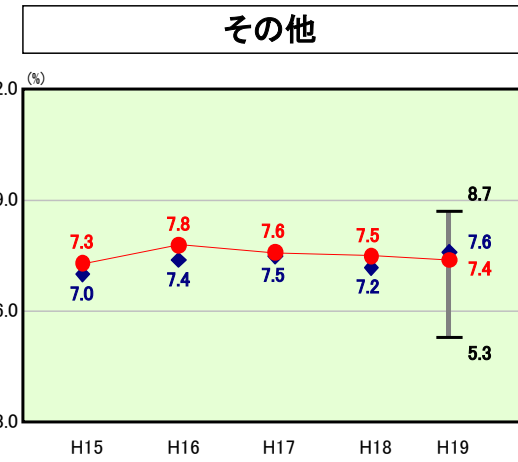
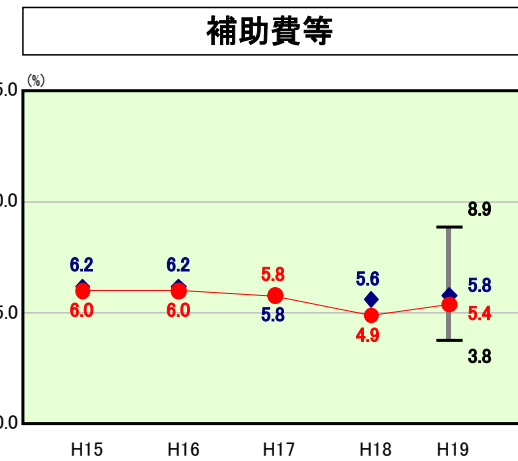
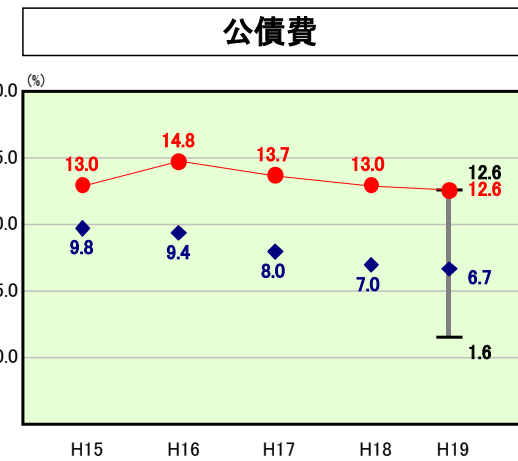
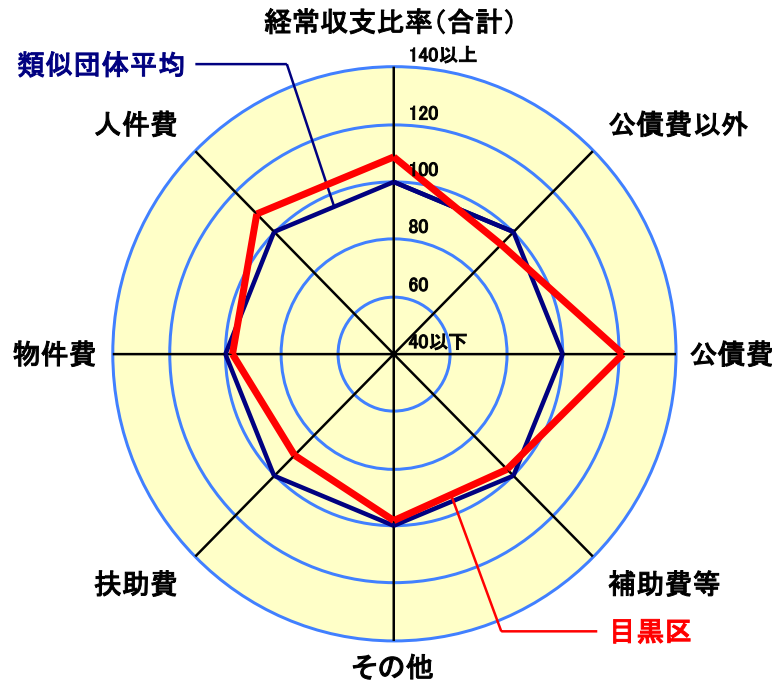
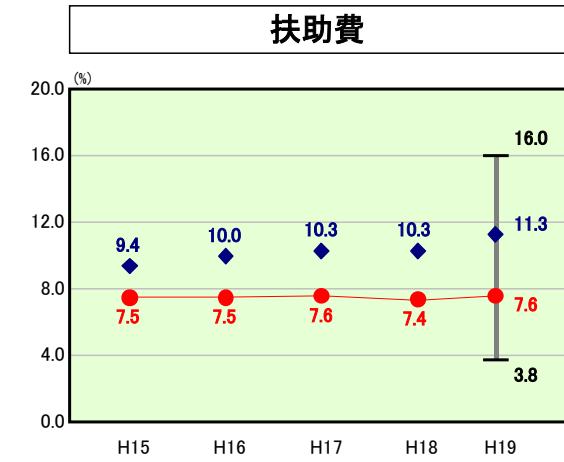
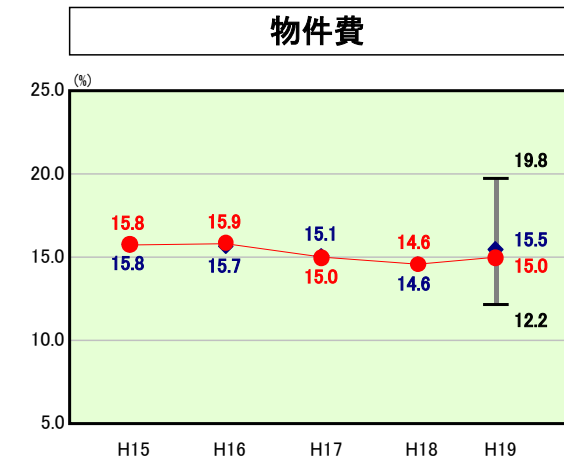
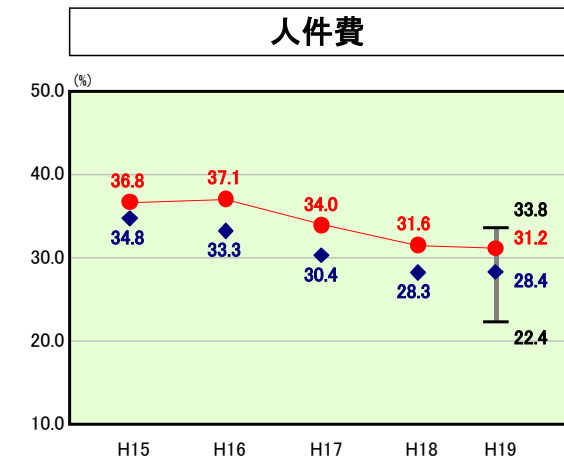
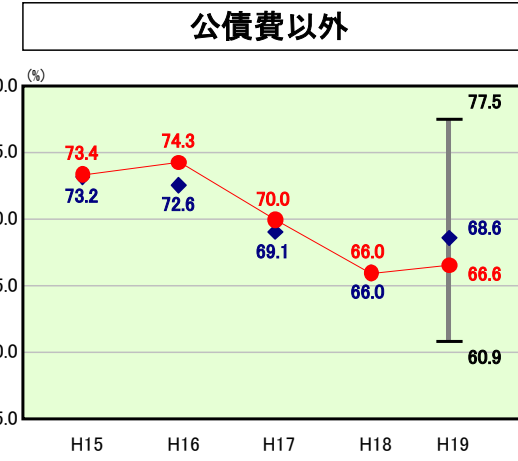
東京都 目黒区

## 経常収支比率の分析



当該団体値 ●  
 類似団体内平均値 ◆  
 類似団体内最大値 ▮  
 類似団体内最小値 ▾

人口	252,452人(H20.3.31現在)
面積	14.70 km <sup>2</sup>
歳入総額	93,626,145千円
歳出総額	90,470,854千円
実質収支	3,054,500千円



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

### 分析欄

#### 経常収支比率

平成19年度の経常収支比率は79.2%で、前年度より0.2ポイント上回っており、類似団体の平均を3.9ポイント上回る数値となっています。経費別では、扶助費は平均を下回っていますが、公債費や人件費などが高い率となっています。今後、特別区税をはじめとする歳入減が見込まれる中、適正水準とされる70~80%内の数値を維持できるよう、事務事業や執行方法の見直しなどにより、財政の弾力性を確保できるよう取り組んでいきます。

#### 人件費及びそれに準ずる費用

人口1人当たり決算額は類似団体の平均を16,427円上回っています。職員定数計画に基づき、事業のスクラップ・アンド・ビルドの徹底、事務事業の効率化や外部委託化の推進などにより職員数を削減するとともに、特殊勤務手当等の見直しや時間外手当の縮減などにより、引き続き人件費の抑制を図っていきます。

#### 公債費及び準公債費

人口1人当たり決算額は類似団体の平均を22,164円上回っています。大規模な公園用地を取得したことに伴う起債により、高い水準となっています。今後は特別区債の発行の必要性を十分精査し、抑制に努めることにより、地方債残高及び公債費の縮小を図っていきます。

#### 普通建設事業費

平成18年度は類似団体の平均を上回りましたが、平成19年度はほぼ類似団体の平均値となっています。平成18年度に高い水準となった主な原因としては、区民1人当たり公園面積が23区の中でも極めて低い水準にあることなどから、大規模公園整備のため用地取得を行ったことがあげられます。今後は実施計画に基づき計画的な事業運営を行ってまいります。